

キタイ

時崎夏姫

ここ数日、数週間、数年。ずっと眠ることができなかった  
あのタオルケットのような暖かさを感じた  
涙が出るくらいお腹の中で星が跳ねたんだ

でも忘れていたんだよな。

目覚めたら何もかもなんだかよく見えなくなつて  
うまく吸って吐いてができなくなった  
大切だと思っていたものも有害成分を含んで

0・5秒漂ってどこかに消えていった  
どンドン僕を腐らせていく

僕はオレンジのおひさまがただ欲しかった  
いつか手に入れられるんだろうなって  
周りのみんなが消えてしまうくらいには  
待ちました

これで全てが救われて  
これで楽になれると

僕、信じていたはずなのに  
振り返ればずっと後ろにいる僕みたいな奴より  
僕はずいぶんとポロポロになって血だらけなんだ

「ああ、またやってしまったね。」

その言葉と共に僕の口から

星が吐かれていったよ

逃げられたんだよ

僕忘れないよ、その嘲笑う顔。